



村中小学校150周年

令和元年
10月1日
第3号

村中小学校は、明治6年(1873年)開校です。そして、令和4年(2022年)が、開校150周年になります。

150周年に向けて集まった情報の中から、新聞の形でお届けできたらと考えています。第3回は、災害の記録をテーマにまとめてみます。

【明治24年の濃尾大地震とは】

東海・東南海地震への備えはよいかという記事をよく見かけます。そこで、かつてこの地方でも被害の大きかった濃尾大地震の記録を振り返ってみたいと思います。

明治24年(1891年)の10月25日から起きた濃尾地震の震源地は岐阜県の根尾村です。(以下、記録より)

- 最初の大震動で、多くの家屋がひとたまりもなく破壊され、揺れ続けた。天も地もごうごうと地鳴りが響く。悲鳴の声、助けの叫び、人の世とは思えなかった。
- 手に手を取り合い、避難のため歩こうと思っても転んでしまい、かろうじて立つだけでいっぱいであった。

- 28日以降1ヶ月間に
烈震(震度6相当) 1回、
強震(震度5相当) 44回、
弱震(震度3相当) 126回、
微震(震度1相当) 755回
- 亀裂部分から水が湧き出るだけでなくさらに泥や土砂などが噴出。
- 井戸やため池・貯水池はまったく用をなさなくなりました。
- 境村(今の河内屋・横内・村中・入鹿・間々・間々原)の被害状況は
全壊住居29 半壊住居79
破損家屋301 附属建物被害616
- 学校は半壊となった建物が1棟あり、仮修繕をし、約3週間後の11月16日に再開となった。



地震で地割れした
木津用水の堤防

~~~~~ ☆ ~~~~~

## 伊勢湾台風後の避難生活



愛知県下で最大の被災地であった弥富町<sup>りきい</sup>や飛島村、三重県の木曾岬村の罹災学童・生徒を学校の体育館や特別教室に受け入れました。中学3年生で卒業するまで小牧中学校家庭室で起居し、住み込み就職先へ移っていった台風孤児もいたそうです。写真は、小牧山にあった旧小牧中学校体育館での避難所生活の様子です。体育館周りは、洗濯物干し場となっていました。服装からも時代感がうかがわれます。

『ふるさと小牧』より

村中小時代の学校生活や暮らしの様子がわかるエピソード原稿(200字~300字程度)を募集しています。ご協力よろしくお願いします。

# 村中小学校の150年(3)

## 【昭和34年の伊勢湾台風とは】

昭和34年（1959年）9月26日にこの地方を襲った伊勢湾台風について、次のような記録が残っています。

小牧航空観測所の観測によれば、9月26日午後9時34分に最低気圧959.7mb、最大風速60m以上という驚異的な風速を記録した。また、降雨も日没とともに一層激しくなり午後8時には時間雨量60mm、日雨量200mmを超した。

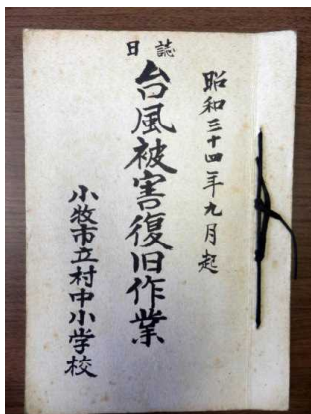
小牧市においても、死傷者520名、家屋1600以上全半壊、小牧山の樹木をはじめ、市内の樹木・電柱・墓石まで倒した。

また、村中小学校における被害状況については、次のとおりです。

屋根瓦が飛ばされ、下地の土やしっくい洗い流されてしまった。そのため、雨漏りが激しく、ピアノは鍵盤が浮いてはずれてしまった。また、近隣民家からトタン屋根も飛ばされてきていた。

復旧にあたって、はずれた瓦を下ろし、杉皮・板張りや下地を補強してから瓦の修理をした。

『台風被害復旧作業日誌』を見ると、専門職人だけでなく連日各区から6・7名の奉仕者が備中鍬や万能を手に、12月12日まで、3か月近く復旧作業や後片付けに追われたことがわかります。



傾いた木の後ろが飛ばされてきた屋根



正面玄関の建物 瓦が多数飛びました



窓ガラスも多数割れてしまいました



いたるところで雨漏りの跡が残りました



大切なピアノも低音部の鍵盤がとれてしまいました

